

## 第10回 就職内定者（企業・公務員・教員）による報告会

日時：2019年11月12日（火）16:20~17:50

場所：文学部B251講義室

今回のリテラアワーでは、7名の就職内定者による報告会が行われました。それぞれ、内定先の業務、動機、就職活動の経緯（スケジュール）、最終的な決定の理由等について報告していただき、また、就活に必要な経費や具体的な勉強方法、役に立った講座やインターンシップに関する情報も提供していただきました。

### ▶ 文部科学省 事務系一般職

教育か公務員か、あるいは企業か、進路の決定に悩みました。しかし塾のアルバイトを経験して、自分は教員に向いていないことを自覚。また実家（鹿児島県）の近くで世界遺産の登録があったことから、観光PRや文化財の保全、文化事業の必要性などを実感し、最終的には公務員に絞りました。自分のやりたいこと、これだけは譲れないということを一一人一人が明確にして、それを大切にしたいと思えます。

### ▶ マツダ株式会社 総合職

今回唯一の、大学院生による報告となります。もともとは英語の教員を目指していましたが、自分がやりたいのは「人を育てること」そのものだ気づき、人材、人事の仕事に興味の方向性が変わっていききました。しかし人材業界からはなかなか内定がもらえず、複数のメーカーから内定をもらったことにより、自分の適性を見直すことに。ドイツ留学の経験から「働きやすさ」（子育てと両立できるか等）も鍵となりました。院卒は就活に不利なのではないかという懸念を抱く方もいらっしゃるかもしれませんが、明確なビジョンがあれば全く問題ありません。就活は「成功か失敗か」ではなく「納得か後悔か」だと思えます。

### ▶ 広島県 高校国語教員

小学生の頃から教員への憧れを抱いており、大学入学後は個別指導塾のアルバイトを続けています。3年次後期からは文学部特設の国語科教育実践演習講座にも参加して、本格的に勉強を開始しました。講座や参考書等、あれこれ手を出すのではなく、利用できるもの、したいものを絞って取り組むことが重要です。また普段から教育に興味を持っておくこと、そして何より、教師になるぞという強い意志が大切です。

### ▶ 読売新聞西部本社 販売戦略職

3年の前期に就活サイトに登録するものの、モチベーションがさほど上がらず、志望先もなかなか決まりませんでした。西日本豪雨災害の際にフェイクニュースが溢れたことをきっかけに、新聞を読むようになりました。そこから、マスコミや広告会社に興味を抱くようになり、読売新聞社で販売戦略に携わる職を選びました。様々なことに興味を持って、色々な人の意見を聞き、能動的に行動することが、勝利に結び付くと思えます。

### ▶ 広島市 I種行政事務職

生まれ育った地元の人々のために貢献したい、という理由からこの仕事を選びました。筆記試験の勉強はもちろんですが、面接では、学業だけでなくボランティア活動等様々な経験やそこから学んだことを問われるので、いろいろなことに挑戦しておくといいでしょう。また、積極的にリテラ講座に参加したり、就学相談室に足を運んだりして、悩みや辛さを一人で抱え込まないことも大切です。

### ▶ 長沼商事（専門商社）総合職

3年次までは漠然と公務員を志望していましたが、就活が進む内に民間企業に興味を抱くようになりました。教育、人材の企業から内定をもらいましたが、その後様々な活動に参加していろいろな方の意見を聞く内に、商社に興味を抱き、内定を辞退して再度就活を始めました。就活は、早めに動き出して納得できるまでやりぬくことが大切です。平日頃からアンテナを張って、知らない世界に飛び込んでいく勇気も持ちましょう。

### ▶ (株)ライツアパートメント (広告会社) プロデューサー

3年の夏休みに複数のインターンシップに参加し、旅行会社や人材派遣会社、小売業など様々な業界を見た結果、自分は音楽や映像系のエンターテインメントにしか興味がないのだということを確認し、広告やエンタメ、マスコミ業界への就職を決めました。自分を見極めるためにも、インターンシップには積極的に参加すべきでしょう。また、自信を持って自分の言葉で話せるようになるためにも、自己分析や企業研究などの準備が必要です。

今回、7名の方全員に共通していたのは、それぞれ自分が何をやりたいのか、何は譲れないのか、つまり自分の「核」となる部分を突き詰めて考えたということです。だからこそ、決して順風満帆というわけではなかったようですが、就活を終えた今、皆さん大きな自信と充実感に満ちあふれていました。また後輩たちへのアドバイスとして、早めに準備を始めること、とにかく行動すること（インターンシップや公務員講座など）、何事にも興味を持ち様々な人の話を聞くこと、そしてじっくり自分と向き合うことの重要性が指摘されました。

就学相談室の取り組みについても、複数の方から「支えになった」とのコメントがありました。マナー講座や内定者の報告会、具体的な就活支援や日常のアドバイスなど、様々な取り組みを行っていますので、ぜひ、積極的に足を運んでください。

最後に、アンケートの中から、感想をいくつかご紹介します。  
「自分には縁がないと思っていた分野の話を知ることができてよかった。人によって就活の仕方はそれぞれであるが、自分から動かなければ何も始まらないことがわかった。」  
「就職か進学か迷っていたので、とても参考になった。」  
「貴重な体験談を聞いて、就活は十人十色だということに改めて実感した。」  
「先輩達がいつ何をしていたか具体的に知ることができたので、今後の就活に役立てたい。」

参加者：学部・大学院生16名（含内定者7名）、教職員4名